

松江武者行列・登場人物相関図

佐々木圭一
佐々木圭一



支城「赤穴瀬戸山城」
城代、歴戦の重臣。
(黄母衣武者/右)

まつせきこ
松田左近

エピソード
大方様…松江城築城の折には、難工事に苦勞する家臣を見るに見かねた奥方は、もちを振る舞いながら。また、時には供を連れて現場を監視し一つ石を運んだ夫人には、一つ割飯を与えてやる氣を促したとも。

エピソード
河原和垂
吉晴弟、支城「三刀屋尾崎城」城代。
(黄母衣武者/左)



堀尾氏光

エピソード
松江城が築城された後も1615年まで、出雲国は月山、三刀屋、赤穴を支城とし、城郭があった。

信長や豊臣秀吉に従って、姉川、長篠、山崎など多くの合戦に出陣し功をたて、とくに秀吉が明智光秀を討った山崎の合戦における、鉄砲隊を率いた天王山争奪をめぐっての活躍は有名。
その人となりについては、通称を茂助といひ、容貌は端正、性格は温厚であることから「私の茂助」と呼ばれ、城攻めでは、開城降伏の交渉など「タフネゴシエター」としても活躍した。
しかし、ひとたび戦場に立てば勇敢に戦う武勇に優れた人物であり、「鬼の茂助」と呼ばれ、幾多の武功をあげる。
加藤清正、藤堂高虎と並び築城名人としても知られ、松江城の完成を見届けた後、戦いに明け暮れた生涯を閉じる。

くろひらげし
熊廣一



則武三太夫

猛将、太刀打ちの名人であり、小山田信茂の首を打たるとされる。(騎馬武者/前)

いづみおとこ
今口五月



堀尾但馬

吉晴のいとこ、家老。堀尾鉄砲隊を率いた。「堀尾古記」に記す。(騎馬武者/後)

いそやぶらぶ
本田裕子



大方様

吉晴の奥方。内助の功の人として有名。

ほりあやむつ
安井誠



堀尾吉晴

松江開府の祖。左頬の傷は関ヶ原の戦いの前に三成の刺客に負った刀傷である。

こやまはるか
小山萌絵



小那姫

吉晴の三女。容姿端麗で家臣の中でも話題になるほどであったと言われている。

かわのりし
河田理沙



古屋姫

吉晴の次女。のちに、家康近臣、石川忠総に嫁ぐ。

エピソード
堀尾忠兵衛…関ヶ原直前の小山評定での、諸將を東軍につけた山内一豊による献策も本来は忠兵衛のものと言われている。前哨戦でも活躍し、その戦功により出雲随岐24万石を拝領した。松江城の城地も選定したが、築城前に将來を囑望されつとも急死した。

よしたかみゆき
玉田谷ブルノ



堀尾忠氏

吉晴の次男。眉目秀麗、才気あふれる初代藩主。

こさかのすみ
後藤希



長松様

忠氏の奥方。豊臣五奉行の一人、前田玄以の娘。

ほりあきあき
堀尾金助



堀尾金助

吉晴の長男。小田原攻めに陣中で亡くなる。

エピソード
小那姫…とても美しい姫であったが、20歳で病に苦しみ、同じような病に苦しむ人の守り神にならんとて塚に身を投じ入水する。現在でも広瀬町には小那姫を祀った甘原姫神社があり、信仰されている。

ほんまのりう
本間亀二郎



野々村河内守

筆頭家老、奥方は吉晴長女勝山。松江大橋、県民会館西側にて会場の実況を担当。

あしたまきこ
大谷麻紀子



勝山

吉晴の長女、家老・野々村河内守の奥方。

しおのり
堀野大智



堀尾忠晴

忠氏長男、松江初代城主。

しんり
馬之介



奈良伊織

吉晴側近。松田左近、堀尾氏光と道中で見どころを解説。

※武者行列としての設定であり、歴史上の解釈と違う場合があります。ご了承ください。

着付協力：装道礼法さきも学院島根県認可連盟
拝服の儀：不味流研究会、中村茶舗

あまのり
菊姫



あきあき
勘解由



エピソード
勝山の長男・勘解由…忠氏の死後、家老河内守と勝山は、我が子に家督を継がせようと忠晴の暗殺を企てたが陰謀は失敗し死罪となる。月山富田城には、河内守親子を供養する親子観音がある。菊姫は琴譜の大庄屋河本家に嫁いだと言われている。